

**学校法人目白学園
目白大学短期大学部
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

目白大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 目白学園
理事長名	佐藤 弘毅
学長名	佐藤 弘毅
A L O	西谷 正弘
開設年月日	昭和38年4月1日
所在地	東京都新宿区中落合4丁目31番1号

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学科		120
製菓学科		80
	合計	200

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	保育専攻	50
	合計	50

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

目白大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 15 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は、「国家・社会への献身的態度」・「真理探究の熱意」・「人間尊重の精神」を意味する「主・師・親」という建学の精神・教育理念を基軸として、教育目的や教育目標を実現するために、具体的な施策が定期的に検討されている。また、教育目標に沿って、各コース別によるカリキュラムが導入されており、それぞれのコースによりその目標や目的の達成に配慮されている。また、子ども学科（平成 18 年度学生募集停止）は、子ども理解の力を養うことを基本的な目標としながら、子ども理解の基本的意義を重視し、保育者養成の基礎を踏まえて具体的な教育課程を配慮している。

教育課程においては、全体として授業内容に応じたクラスの規模も適当であり、設置された学科の卒業要件は学生に理解しやすい表現で、よくまとまった教育課程が編成されている。それぞれのコースの取組みも評価できる。また、授業内容・教育方法の改善に対しても積極的である。

教員組織では、教員数は短期大学設置基準に基づき充足しており、教員の採用、昇任などは適正な規定により行われている。担任制度が採られており、全面的な学生支援が行われている。教育環境は、校地、校舎や設備関係において、学生に充分配慮され、かつ短期大学設置基準を充たしている。障害者に対する対応についても配慮がなされている。図書関連に関しては、設備、購入システムおよび検索システムなどしっかりと確立されている。

教育の効果と実績において、単位の認定方法は短期大学のすべての課程について総合評価で適正に評価されている。卒業生アンケートおよび卒業生に対する就職先のアンケートの結果は、ともに良好な回答で、教育の成果が出ていると判断できる。それにとどまらず、さらなる授業の改善に取り組んでいることがさらに評価できる。教育効果を測定し、その結果を踏まえ、教育目標に向けて常に改善する姿勢をみることができると判断される。

学生に対する支援では、教育目標に向かって学生生活が充実するために、様々な案内、ガイドそしてウェブサイトにて建学の精神・教育理念や教育目標、望ましい学生像

を明示している。また、新入生には入学前から冊子を配布し、入学後のオリエンテーション、2泊3日のフレッシュマンセミナーなどで十分なガイダンスが実施されている。学生食堂は学生総数に比べ小さめであるが、校内のいたるところに学生の憩える空間と施設が設けられている。安全対策は、毎年の消火訓練、火を使用する授業での防災に対するガイダンス、また、備蓄もしっかりとなされるなど高く評価できる。就職支援は、ニート・フリーター問題も踏まえ、就職ガイダンス、就職講座の回数を増やし、個人面談も行われ支援体制が充実する方向にある。

研究に関しては、すべての教員が研究活動を展開し、共同研究を含め活発に研究活動の状況を報告書ならびにウェブサイトにて公開している。科学研究費補助金の申請に向けての研究会も精力的に行われている。

短期大学と地域社会を含む外部との連携において、社会貢献を重視する建学の精神に立脚し、社会性および自主性のある学生を育て教職員自らも社会的活動に取り組むことや、学生が授業あるいはクラブおよびサークル関連でボランティア活動を行うことが積極的に評価されている。四年制大学併設のスケールメリットも得て、地域からの信頼を得つつ高等教育機関としての社会的役割を果たしていると評価できる。

管理運営における、情報の共有については理事長が学長を兼務しているため、短期大学部と理事会の意思の疎通は取られている。理事長のリーダーシップが適切に発揮される一方、理事会は寄附行為などの規定に基づいて適正に開催、運営されている。

財務については、中期計画（平成17年度～平成21年度）に基づき、予算の立案、予算の執行など適正に執り行われている。とくに、予算執行状況や財務状況は財務担当理事が常勤理事連絡会で適宜、報告している。資産および資金の管理運用は、管理規程が設けられ安全に運用されている。財務情報は経理窓口、ウェブサイトにて公開されている。消防、防犯、セキュリティなどは規程により運営されるとともに省エネ対策、地球環境保全対策にも工夫をしている。

自己点検・評価においては、自己点検・評価のための規程および組織を整備し、定期的に自己点検・評価が行われている。関与する教職員の割合は比較的高いと評価できる。様々な取組みの結果は、将来、自己点検・評価、相互評価、第三者評価を通して、よりよい方向で現れてくるものと期待される。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神「主・師・親」について、関係資料・文献の収集に努めながら組織的に取組み、新たに現代的解釈を提示するとともに、学生にも広く周知していることは、学園のもつ教育理念に対する責任を表すものである。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 多数の専門科目に加え芸術系・外国語系を含む幅広い教養科目を開設し、しかも併設大学の科目履修も可能にしていることは、学生の多様なニーズに応えること

もに自発的学習意欲を引き出すものである。

- 教養科目を「日常生活の広がりの中で実際に活用できる能力」と積極的に位置づけ、「社会人とマナー」などの自己表現科目群にみられるように専門科目につながるよう工夫されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 「実際的な能力を身につけた人材」の育成という教育理念を実現するために必要な実験・実習室が十分に配置され、また学生の憩いの場やパソコンが自由に使用できるメディアプラザやネットカフェも整備されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 毎朝教職員が正門に立つ「挨拶運動」の実践は、卒業生が社会常識・マナーや職業適性能力で高い評価を得る源泉になっている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 授業との関連でクラスごとに分担を決めて通学路や公園の掃除を行っていることは、地域の中にある短期大学にとって有意義なことである。
- 教育研究所の公開講座をはじめ、目白学園学生子育て支援サービスによる託児所、子ども学科の「飼育栽培実習」など、地域の生涯学習や地域交流が活発に行われている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 個々の自主性・自発性に基づく自立型の人材育成を目標として、研修会やスタッフ・ディベロップメント（SD）セミナーなど事務職員の能力開発・向上の取り組みがみられる。

評価領域Ⅸ 財務

- 学園全体に省エネルギー対策や地球環境保全対策がとられ、キャンパスのアメニティ向上につながっている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 早くから自己点検・評価や相互評価の実施に取り組み、学内改革・改善にあたる体制を整備しながら評価文化の醸成を図っている。

（２）向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 科目によって授業シラバスに粗密がみられるので、体裁や記載内容の統一に向けた工夫・改善が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 生活科学科において、秘書ビジネスコース関連を除く資格コースの受講生が少ないように見受けられるので、学生のモチベーションを高める工夫・改善が望まれる。
- 一部に単位取得率が低く、また不可となっている科目も少なくないので、授業運営の工夫・改善を含めて検討することが望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- セクシュアルハラスメント以外のパワーハラスメント、アカデミックハラスメントを含めた総合的な防止規程が整備されていないので、その制定および周知・徹底が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

教育目的や教育目標を実現するために、具体的な施策が定期的に検討されている。

教育目標に沿って、「フード・ウェルネスコース」、「ファッション・デザインコース」、「秘書・ビジネスコース」、「園芸ライフデザインコース」、「製菓コース」の五つのコース別によるカリキュラムが導入されており、それぞれのコースによりその目標や目的の達成に配慮されている。また、子ども学科は、子ども理解の力を養うことを基本的な目標としながら、子ども理解の基本的意義を重視し、保育者養成の基礎を踏まえて具体的な教育課程を配慮している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

全体として、授業内容に応じたクラスの規模も適当であり、設置された学科の卒業要件は学生に理解しやすい表現となっている。全体として、よくまとまった教育課程が編成されている。それぞれのコースの取組みは評価できる。また、授業内容、教育方法の改善に対して十分に配慮されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は、短期大学設置基準に基づき、教員数は充足しており、教員の採用、昇任などは「目白大学短期大学部教員等資格選考基準」および「目白大学短期大学部教員選考手続規程」により行われている。担任制度を採り入れ全面的な学生支援やコミュニケーションをとって、教員業務は活発であると認められる。教育環境は、校地、校舎や設備関係において、充分配慮され短期大学設置基準を充たしている。学生生活の満足度の向上に気配りの様子が出ている。障害者に対する対応についても障害

者用トイレの複数個所設置など配慮がなされている。図書館設備は蔵書、学術雑誌、AV資料などは充分であり、蔵書など購入システムも確立されている。図書システムは学内外からIDとパスワードで検索できるようになっている。学生への図書利用のための「学習技法の基礎Ⅰ」で図書利用ガイダンスを行っている。また、読書感想文コンクールなどにより学生利用を促している。

以上より、教育の実施体制は整っていると判断できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定方法は短期大学のすべての課程について総合評価で適正に評価されている。

卒業生アンケートの結果は「授業内容に満足」、「楽しかった」などおおむね短期大学に対して好意的である。また、両学科ともアンケートの結果を参考にして授業の改善に取り組んでいる。

卒業生に対する就職先のアンケートが実施され「短大生にふさわしい社会常識やマナーを学んでいる」、「職業適性能力を身に付けている」などの高い評価を受けている。これは訪問調査時からも学生の挨拶などのマナーのよさが伝わり好印象であったことから評価できる。

退学者対策に教務部長を長にプロジェクトチームをつくり、『平成18年度中退プロジェクト報告書』が学長に答申され、平成19年度から実施されている。

以上より、教育効果を測定し、その結果を踏まえ、教育目標に向けて常に改善する姿勢を見ることができ、教育実績や教育効果も充分評価できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

短期大学部入学案内、保護者版入試ガイド、ウェブサイト在建学の精神・教育理念や教育目標、望ましい学生像が明示されている。冊子『大学入門』を入学前から配布し、入学後のオリエンテーション、2泊3日のフレッシュマンセミナーにおいて履修登録、授業、学生生活など大学生活全般に対するガイダンスが実施されている。また、2年生にも学年別オリエンテーションが実施されている。クラス担任制度を設け基礎学力不足の学生に対し個別指導などを有効にしている。

学生食堂は、学生総数に比べ小さめだが、校内のいたるところに学生の憩える空間と施設が設けられている。奨学金については周知度が少し低めであるが、公的なものと同窓会からの制度を有し、充実している。安全対策については、毎年消火訓練を行い、火を使用する授業では、最初の授業で必ず防災に対するガイダンスを行っている。また、備蓄もしっかりとされている。

就職については、ニート・フリーター問題も踏まえ、就職ガイダンス、就職講座の回数を増やし、また個人面談も行い成果を上げ、支援体制が充実する方向にある。

評価領域Ⅵ 研究

担任制度でしっかりと学生を支援する一方で、すべての教員が研究活動を展開し、研究活動の状況を報告書ならびに、ウェブサイトに公開している。学科ごとに共同研究の実績を残しており、また科学研究費補助金の申請に向けての研究会も実施している。研究費は基本研究費と特別研究費があり、それぞれ独自の規程が整備されている。研究を発表する機会については『目白大学短期大学部研究紀要』と併設大学の発刊している六つの紀要に投稿することが可能である。

研究時間は週 2 日（平成 19 年度より 1 日）確保され、夏季休業、冬季休業、春季休業は自由に研究日が確保できるようになっている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会貢献を重視する建学の精神に立脚し、社会性および自主性のある学生を育てようとしていることから、教職員が社会的活動に取り組むことや、学生が授業あるいはクラブおよびサークル関連でボランティア活動をすることが、積極的に評価されている。さらに、併設大学と共通の公開講座や生涯学習授業が定期的実施され、受講者は多い。桐和祭（大学祭）も地域との交流の場になっており、近隣との一体化に寄与している。

全体として、人口稠密ながら落ち着いた環境の立地をいかし、さらに大学併設のスケールメリットも得て、地域からの信頼を得つつ高等教育機関としての社会的役割を果たしていると判断できる。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長が学長を兼務しているため短期大学部と理事会の意思の疎通は取られている。理事長のリーダーシップが適切に発揮され、理事会は寄附行為などの規定に基づいて開催されている。理事の構成もバランスが取れている。「目白 Quality Education への挑戦」を掲げ、中期計画(平成 17 年度～平成 21 年度)を作成し、実行している。

学長は短期大学部運営全般に関与し、教授会、大学運営委員会などは規程に基づき開催され、学長のリーダーシップは発揮されている。

事務部門も適当な規模であり、事務諸規程により運営されている。事務職員は SD セミナーの研修を受け、さらに、教職員管理職合同で行う SD、ファカルティ・ディベロップメント (FD) 研修会を合宿形式で行っている。入試を含め学生によるサポート体制「メジスタ」は、受験生や新入生への対応に大きく貢献している。

人事関係でも、諸規程を設け、労働基準法に則り適正に執り行われており、全般的に管理運営は良好に機能している。

評価領域Ⅸ 財務

中期計画（平成 17 年度～平成 21 年度）の下で、予算もこの線上で執り行われ、各

部門から提出された予算案は最終的に理事長によるヒアリングを経て理事会で確定される。予算執行状況や財務状況は、財務担当理事が常勤理事連絡会で報告している。資産および資金の管理運用については、「学校法人目白学園有価証券運用規程」、「学校法人目白学園金銭会計細則」、「学校法人目白学園教育充実資金」により管理運用され、財務情報公開は「学校法人目白学園財務書類等閲覧に関する規程」により経理窓口、ウェブサイトで公開されている。学校法人の資金収支において、次年度繰越支払資金が漸増している。

基本金への組み入れにより支出超過になっているが、校舎建築、設備関係など学部学科の増設などによる支出超過であり、帰属収入と消費支出の差では収入超過である。入学者状況は妥当であり定員を充たしている。施設設備は規程に則り運営配置されている。また、消防、防犯、セキュリティなどは規程により運営されているとともに震災対策、省エネ対策、地球環境保全対策にも工夫をしている。

総体的に良好に運営され、健全に推移していると判断できる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価のための規程および組織を整備し、定期的に自己点検・評価を実施している。しかしながら、自己点検・評価報告書にも示されているように、自己点検・評価活動には出来るだけ多くの教職員が関与するよう配慮されているが、その度合いは全体の三分の二強である。

相互評価（独自に行う外部評価を含む。）への取組みは法令化される前より実施されており、平成12年度に行った。また、相互評価の成果を出来るだけ活用するように配慮されている。